

学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トボス]

Topos

vol.74
Dec. 2014

[特集] インターンシップ

社会の中で学ぶ学生たち。





「特集」

社会の中で学ぶ 学生たち。

ここ数年、実施する企業が増えているインターンシップ。学生の関心も高まる中、本学でもキャリア教育の一環として地域企業や官公庁のご協力のもと導入を進めてきました。今回はこのインターンシップを取り上げ、実社会の職務体験に参加した学生・生徒の感想から、キャリアデザインや学業に対する効果をご紹介します。

■ 学生の職業観を育成する場としての インターンシップ

職務経験のない生徒や学生にとって、仕事は未知の世界。インターンシップではそうした仕事の現場を体験し、自分が働いている姿をイメージしながら、しっかりとした職業観を養うことを狙いとしています。アルバイトとの大きな相違点は、大学や学校の教育の一環として、自己分析や企業研究を行ったうえで実習に臨むこと。また、企業の仕組みや各セクションの業務が理解できるようなプログラムが用意されていることや、日常では触れる機会が少ない業種の情報を得られるというメリットもあります。実際の職場には、どのような仕事があるのか、そして、社会人はどのような意識で働いているかを知ることが、就業後のミスマッチを防ぐことにもつながります。本学では、地域を支える人材の育成という目標を共有してくださる企業と連携し、学生や生徒が、キャリアデザインを考える機会としてインターンシップを、今後充実させていきます。

常磐大学・常磐短期大学では、インターンシップを
正課（Ⅰ種）・正課外（Ⅱ種）ともに広く展開しています。

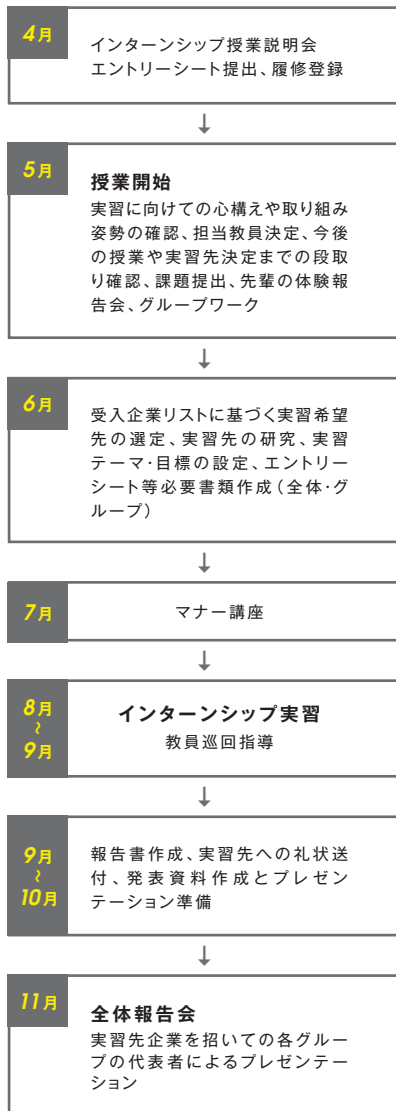
常磐大学・常磐短期大学

正課のインターンシップとは？

正式な授業科目として単位が認定されるインターンシップ。事前学習から実習中のサポートや事後学習まで、担当教員がきめ細かく指導することなどにより、学習効果を高めています。

■ 2014年度 正課のインターンシップの流れ

※大学の場合



■ 正課のインターンシップの主な実習先 (2014年度、順不同)

木内酒造合資会社／いばらきコープ生活協同組合／有限会社紅茶館／有限会社モーハウス／茨城県企画部空港対策課／茨城県立こころの医療センター／常陸太田市役所／石岡市政策企画課／水戸市産業経済部商工課／茨城県近代美術館／笠間市市民生活部市民活動課



民間交番は住民の方に安心感を与えるとともに、犯罪を未然に防ぐ役割も担っているということでした。



ファイルをきれいにそろえるのは、次に使う人が見やすいようにするため、と言われ、仕事には一つひとつに意味があることを学びました。

● インターンシップ先

Internship Report 01

笠間市役所

片岡 美咲



「働く」とは何か、を考えるきっかけになりました。

インターンシップの1週間

8/25 mon

市民活動課の業務説明を受講

ふるさと寄付金特典関連のPC作業

8/26 tue

仮発行台紙の整理

青年海外派遣報告書の作成(過去の分)

民間交番あさひ訪問

8/27 wed

秋の交通安全運動打ち合わせ

市内施設視察

8/28 thu

地域少子化対策会議に参加

友部公民館・消費生活センター訪問

8/29 fri

安全協会笠間支部役員会に参加

コミュニティビジネス講座資料作成

「役所の会議に出席できたのは貴重な経験でした。進行のスムーズさに、学生と社会人の違いを実感しました」

事前の講義で、社会人の基本を学習。私は卒業後の進路として公務員を希望しています。公務員の実際の仕事を知られる機会はないかもしれませんが、インターンシップのガイダンスで官公庁がインターンシップ先の候補にあることを知り、将来の参考になると考えて履修しました。前期には、夏期休暇を利用して行われるインターンシップに備え、事前講義が行われます。講義では社会人としての基本的なマナーや心構え、実習先での注意事項などについて学び、また、希望するインターンシップ先の研究などを行います。準備を整えて迎えた夏、夏期休暇中の8月25日から5日間、希望通り笠間市役所で就業体験を行いました。配属された市民活動課の業務は、非常に多岐にわたる。インターンシップの期間では到底すべてを把握できないほど多様でした。大きくは防犯・交通安全に関するものと、市民活動やその組織を支援することに分かれ、さらに消費生活に関する相談があります。市民の生活にかかわることは、すべてと言えるほどで、安心な暮らしはこうして支えられているということを実感しました。



片岡 美咲
常磐大学 人間科学部心理学科 3年

仕事は厳しさの中に楽しさがある。市役所の職員の方々からは、一人ひとりが真摯に仕事と向き合っていることが伝わってきました。かといって、ただ業務をこなしているだけではなく、仕事に集中しているときも、市民の方が窓口に来られれば、即座に席を立てて対応されていましたし、職員の方同士の間にも楽しさがあることが分かりました。職場体験を通して感じたことは、受け身の姿勢では得るものが少ないということです。なるべく自分からコミュニケーションをとり、できる作業はないか積極的にはたらきかけることが大切だと思います。今回の経験は後日報告書にまとめ、報告会でプレゼンテーションを行いました。一般企業での実習を体験した仲間の発表も参考に、今後の進路を考えようと思います。

正課外のインターンシップとは？

単位認定を伴わない正式な授業科目以外のインターンシップ。学生の自主性を生かしながら、キャリア支援センターが各自の活動をサポートし、広く展開しています。

■ 正課外のインターンシップの特徴

インターンシップ先を自ら開拓・交渉することで自主性が育つ

実習先をWebなどで探して応募する「直接応募型」と、キャリア支援センターが紹介する「大学経由型」があります。自ら開拓し、企業研究などを通して、自主性を育みます。

キャリア支援センターが丁寧にサポート

実習先企業の紹介、実習前マナー講座の開催、提出書類の書き方指導などしっかりサポート。また、実習後に報告書を作成し振り返りを行うことで実際の就職活動にも役立ちます。

通年にわたりインターンシップに参加する機会がある

実習は、夏期および春期休業中のほか、通年にわたり参加できます。正課のインターンシップを履修できなかった場合も含め、複数のインターンシップに参加することが可能です。

■ 正課外のインターンシップの主な実習先

(2014年11月現在、順不同)

株式会社グリーンハウス／トヨタホーム販売会社グループ／ネットヨタ茨城株式会社／茨城セキスイハイム株式会社／株式会社常陽銀行／茨城県信用組合／株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック／ひたちなか海浜鉄道株式会社／憧れ花のアトリエ／株式会社東日本朝日広告社／日本郵便株式会社／株式会社ワンダーコーポレーション

ほか

Internship Report_02

正課外のインターンシップ



改札業務を行った那珂湊駅は築100年。「関東の駅百選」にも選ばれました。



● インターンシップ先

Internship Report 02

ひたちなか海浜鉄道

伊藤 達也

お休みの日はカメラを持った観光客や親子連れが多く利用する「ひたちなか海浜鉄道」。楽しい休日の安全と快適さをサポートする仕事はやりがいが大きいです。



働くことの厳しさ、責任感を学んだ5日間でした。



伊藤 達也
常磐大学 人間科学部心理学科 3年

現場での反省を今後の大学生活に生かします。

昔から鉄道に興味があり、キャリア支援センターで「ひたちなか海浜鉄道」のインターンシップに応募できることを知って、鉄道会社の業務を体験する良い機会だと思い参加しました。日程は9月1日・3日、9月15〜17日の5日間。初日の午前中に研修を受け、その後は改札業務や企画キップのPR活動などの実習を行いました。研修では社会人としてのルールや、鉄道という公共性の高い事業に求められる倫理観などについて学び、学生と社会人の意識に大きな差があることを知りました。また、キップを買っていただいたお客さまを、安全に、時間通りに、目的地に送り届けることが企業としての約束であり、鉄道会社のさまざまな業務はすべてそのためにある、という責任感も、社会人としての心構えを築くうえで、とても参考になりました。改札業務実習では研修で学んだ「相手に気付いてもらえなければ、あいさつとして成立していない」というポイントを意識して、声をかけていたのですが、お客さまが反応してくださったときは、手ごたえを感じました。反省点は無意識に失敗を恐れ、あまり自発的に行動できなかったことです。キャリア支援センターの方に報告した際、「今それに気付けたこともインターンシップの収穫」と励まされ、今後の課題として取り組んでいきたいと思っています。

常磐大学高等学校では、夏休みに3年生を対象とした茨城県内病院施設を実習する「1日看護体験」と、2月に1・2年生を対象とした常磐大学幼稚園の実習を展開。希望する生徒は誰でも参加できます。

Internship Report_03



夢だった看護師が、
本気の目標になりました。



友部 隼人
常磐大学高等学校 3年

医療現場の雰囲気に触れ、やりがい大きさを実感。看護師になることが夢で、受験の準備や将来の進路決定にも役立つと思い、看護体験に参加しました。インターンシップ先の茨城県立中央病院では4階の病棟に配属され、看護師の方たちの仕事の内容を見学し、実際に血圧を測定したり、車椅子を押す介助などを体験しました。看護師の方たちは忙しい中でも、テキパキと行動されていて、排泄物の処理なども顔色ひとつ変えず、そして、どんな方にも笑顔で接している様子を見て、あらためてプロ意識を感じました。私も、入院中の患者さんと会話をする機会をいただいたのですが、「男性の看護師も増えてきているみたいだからがんばって看護師になってね」と言われたことがうれしくて、看護師になるという夢に本気で取り組もうと決意しました。また、看護師の方からも、力仕事が多く、男性看護師は今後ますます必要とお聞きし、男の看護師だからできることがあると知ったので、自分も役に立ちたいと思っています。これまでは看護師の仕事がどんなものか、分からないことがたくさんありましたが、今回の体験でそれを少しでも知ることができたことに感謝しています。看護師になるには、今まで以上に勉強が必要になります。進学した先でもしっかりと看護について学び、さまざまな経験を積んで、人の役に立てる存在になることが目標です。



実習は夏期休暇中の8月21日に、茨城県立中央病院で行われました。

● インターンシップ先

Internship Report 03

茨城県立中央病院

友部 隼人

智学館中等教育学校では、5・6年次生対象の常磐大学幼稚園での実習に加え、一般企業にもご協力いただき、10月9日・10日の2日間で3・4年次生もインターンシップを体験しました。

Internship Report_04



3歳の頃からの夢に
一歩近づいた1日。



磯島 麻生
智学館中等教育学校 6年次

子どもと向き合うこと、視野を広く持つことの大切さ。自身が園児だったころ、担任を受け持っていた先生が大好きで、七夕の願い事には幼稚園の先生になりたいと書いていました。そんな小さいころからの夢をかなえるステップとして、貴重な体験になると考え、インターンシップに参加しました。私は年中さんのクラスに入り、教室の中で、先生と4歳児の園児たちの生活を見学させていただきました。また、その日は気温が高かったので、プール遊びがあり、プールで遊んでいる様子を見守ったり、プールから出た園児たちの体を拭いて着替えを手伝ったりしました。先生からの注意事項を聞く前に遊び出す子もいたので、そんなときも先生の指導は的確で、言葉かけや手遊びで、子どもたちが集中していく様子には感心しました。子ども同士がけんかをしてしまったときも先生の対応は素早く、当事者の2人にきちんと話して聞かせながら、教室のほかの子どもたちにも目配りをしていて視野の広さが印象に残っています。インターンシップでは、子どもと向き合うことの大切さを学びました。今回、幼稚園での1日を体験し、私の幼稚園教諭になるという夢は、より現実味のある目標になりました。今回の体験をもとに、常磐短期大学の2年間で専門的な知識を学び、実習体験を積んで、幼稚園教諭にふさわしい力を身に付けたいと思います。



学期末休業を利用して6月13日に行われた実習。楽しいだけでなく、体力が必要なことも分かりました。

● インターンシップ先

Internship Report 04

常磐大学幼稚園

磯島 麻生

News and Topics

学生、生徒、園児たちは日々学び、経験し、成長を続けています。
このページでは学校法人常磐大学の各学校の取り組みやイベントの様子をはじめ、
日々の活動とその成果をお知らせします。

健康栄養学科の学生が考案したメニューを 学生食堂で販売しています。 栄養満点でおいしいです!

人間科学部健康栄養学科の学生が考案したメニューを、見和キャンパスL棟学生食堂で販売しています。これは、3・4年生が以前「給食経営管理実習」で考案した献立をもとに、株式会社グリーンハウスのご協力でアレンジを加え実現したものです。10～12月の毎週木曜日、週替わりで各グループが考案したメニューが限定20食で提供されました。「ペスカトーレ・緑黄色の温野菜、ミルクきのこスープ、さつまいものプリン」「豆腐ハンバーグ、蒸し焼きサラダ、コンソメスープ、ミルクプリン」など、栄養満点でバランスも良く、「全体のバランスを考えつつ、一品一品が単品でも美味しくなるように気をつけた」という学生の自信作。学生や教職員からも「美味しい」「ボリュームがある」と大好評でした。



大 学



幼 稚 園



「宿泊保育」は年長さんの大イベント。
約束を守って過ごす時間の中で、
子どもたちは、頼もしく成長しました。

7月30・31日の1泊2日、宿泊保育を行いました。登園したときは少し不安そうな表情だった子どもたちも、レクリエーションが始まると笑顔に。プールに入って、夕食は1学期にみんなで育てたジャガイモ入りのカレーライスを食べました。外が暗くなる頃には、いよいよキャンプファイヤーです。火を囲んで歌ったり踊ったり、みんなで線香花火もしました。夜は遊戯室にふとんを広げ、友達と並んで眠り、翌朝、元気にあいさつ。ごはんを食べた後は、園庭で遊んだり、田んぼの観察に出かけたりしました。「自分の事は自分でする」「お友達と協力して過ごす」。みんなで約束したことを一生懸命やり遂げた「さくら組」「しらかば組」の子どもたち。その顔は、登園したときよりもお兄さんお姉さんに見えました。

「常磐大学&水戸ホーリーホック コラボデー2014」を開催。 5,242人のご来場をいただきました。

地元Jリーグチーム水戸ホーリーホックと常磐大学が連携し、地域社会の活性化を図る「コラボデー」が8月24日に開催されました。5年目を迎えた今回は、国際学部経営学科による各種イベントや、短期大学幼児教育保育学科による託児室のほか、高校、中等教育学校の生徒・幼稚園児・大学サッカー部が運営サポートに協力し、会場全体を盛り上げました。経営学科による各種イベントは「ときわんこ」と「ホーリーくん」のPK対決、フェイスペイントでベストカップル選出、応援メッセージ入りオリジナルうちわを使用したスタンドウェーブ、ボールを蹴って遊ぶピンボールゲーム、ドリブルのタイムを競うゲームなど盛りだくさん。来場者数は5,242人と、水戸ホーリーホックの今年のホームゲーム平均入場者数を上回り盛会のうちに終了しました。

法 人





大学・短大

「第3回水戸まちなかフェスティバル」に
本学の学生たちが参加。
若いパワーに期待が集まっています。

9月28日に開催された「第3回水戸まちなかフェスティバル」に学生たちが参加し、地域活性化に貢献しました。水戸まちなかフェスティバルは、水戸市のメインストリートを歩行者天国にしてさまざまな催しを行い、商業や観光の振興とにぎわいを創出して、震災復興の原動力にすることが目的です。国際学部英米語学科の学生たちが行ったのは英語の絵本の読み聞かせ。参加した学生は「小さな子どもたち向けに、表情を豊かにすることに気を付けました。中学校の教師を目指しているのので、この経験を役立てたいと思います」と話してくれました。また、華麗なダンスパフォーマンスを披露した、ダンスサークル・ブギートレインの学生は「たくさんの来場者に喜んでいただけて良かったです」と、笑顔を見せていました。



高校

「ときわ祭」を開催。
今年は5年ぶりに一般公開し
4,200名を超える来場者を迎えました。

9月13・14日に2年に一度の大イベント「ときわ祭」を開催しました。前回は震災の影響もあり、校内発表のみでしたが、5年ぶりの一般公開とあって、生徒からも「ときわ祭」を盛り上げようという意気込みが感じられました。スローガンは「『常磐線 上り列車 ときわ号』～出発進行!未来に向かって～」。

校舎を駅舎に見立て、生徒全員が「駅で働く人々」という設定のもと、各クラスさまざまな企画を考案しました。東門にはエコキャップアート『線路アーチ』を設置して来場者をお迎えし、2号館では生徒たちの「夢」が書かれたオブジェ『ドリームトレイン』を展示。さまざまな企画を通して、協力することや周囲を思いやることの大切さを感じ、励まし合う仲間たちというかけがえのない宝物を手に入れたようです。



智学館

全校生徒が一堂に会した「夏季学習合宿」。
初めての試みでしたが大成功のうちに幕を閉じました。

7月28日～31日の4日間、福島県の猪苗代磐梯高原において「夏季学習合宿」を実施しました。前期課程・後期課程の全校生徒が一堂に会して行う学習合宿は本校にとって初めての試みでした。早朝から夜遅くまで黙々と勉強に励む6年次生の気迫に刺激され、4・5年次生も「先輩にならえ」とばかりに夜の学習時間を増やしました。心地よい緊張感が漂う中で生徒がお互いに刺激しあって学習に臨んだことに加え、6年次生は座禅、5年次生以下の生徒たちは、野外活動や映画鑑賞など、普段の学校生活では味わえない貴重な体験もできました。温泉で身体を休め、澄んだ空気のなか満天の星空を見上げながら、競って夏の星座を探る醍醐味を味わい、3泊4日の合宿は充実感をもって幕を閉じました。



大学・短大

水戸黄門まつり「市民カーニバル in MITO」に
初出場しました。

今年で第54回を数える水戸黄門まつりの「市民カーニバル in MITO」に、常磐大学と常磐短期大学の学生たち65人で編成したチームが初出場しました。毎年8月の第1金・土・日の3日間にわたって開催されるこの水戸黄門まつりは、期間中、千波湖で約4,500発以上の花火が打ち上げられ、水戸黄門パレードや市民カーニバルなどのイベントでにぎわうことで知られています。コミュニティ振興学部を中心として集結した有志は、うだるような暑さの中で、「ときわんこ」ポーズも盛り込んだオリジナルのダンスを約4時間踊り切りました。ダンスの振り付けや法被のデザイン考案、鉢巻の作成などは、すべて学生の手によるもの。みんなで協力し合い、地域活動への参加を通じて、水戸の活性化の一役を担いました。



大学院

アジア、ヨーロッパ、アフリカ、オーストラリア、世界10か国から被害者学を学ぶ人々が集いました。

7月28日から8月8日まで、「アジア地域大学院コースー被害者学および被害者援助論ー」を、世界被害者学会と常磐大学国際被害者学研究所が共催で開講しました。14回目となるこのコースは世界各地で被害者学を学ぶ人々から注目され、今回は19名の参加者が受講。茨城県警察本部を視察するなど、多くの学びを深めました。また、水戸での生活を通じて、親日感情を抱き、共に学んだ世界中の仲間と友情を育て、帰途につかれました。閉会式では、全講義に出席し、被害者支援プロジェクトの提案発表を行った受講者に対して修了証が授与されました。



幼稚園

万一のときも落ち着いた対応ができるよう救命救急講習を実施しました。

9月17日、日本赤十字社茨城県支部の指導員2名をお招きし、本園教職員対象の『子ども(1歳から学齢前)の一次救命救急講習会(短期講習)』を実施しました。起こりうる可能性の高い事故に対する心肺蘇生、AEDの取り扱い、気道内異物除去法について講習を受け、実技を何度も繰り返し行うことにより、それぞれが体が覚えることができました。指導員の方から、実際に起きたケースや心肺蘇生の大切さを教えていただき、充実した講習会となりました。どの教職員も落ち着いた対応ができるよう、今後も研修を継続していきます。



高校

留学生との会話を通して、身近に外国語、外国文化に触れるEnglish Connectionsを体験。

10月1日、常磐大学の交換留学生による本校生のための英会話レッスン「Tokiwa English Connections(EC)」が開催されました。プログラムのコンセプトは「とにかく話してみよう」「とにかく使ってみよう」。毎週与えられたトピックについて英語で話し合い、普段の英語の授業とは違う雰囲気の中、楽しみながら英会話を学びます。今回のテーマは好きな食べ物について。生徒たちは「すき焼き」や「大福」を英語で説明することに苦労していましたが、留学生に何とか理解してもらえたようです。同年代のネイティブスピーカーと会話することで、生きた英語を習得できる貴重な機会となりました。



大学

常磐小学校の「国際理解」の授業に健康栄養学科の学生がボランティアとして参加しました。

9月9日、常磐小学校5年生の総合的な学習の時間で、人間科学部の小関一也准教授による、「国際理解」の授業が行われ、栄養教諭志望の健康栄養学科3年生11名が参加しました。テーマは常磐小学校とアフリカのマラウイ共和国の子どもたちをつなぐ国際交流活動。今回はマラウイの主食である「メイズ(とうもろこし)」と「シマ(メイズをお湯で調理したもの)」について発表を行い、最後に学生たちが調理した「シマ」を子どもたちに実際に食べてもらいました。思いがけない異文化の食事体験に、教室には笑顔があふれていました。



幼稚園

大きな地震を想定した今年の「地震時保護者お迎え訓練」はみんな真剣に参加できました。

9月17日、お家の方に迎えに来ていただく訓練を行いました。前日、実際に少し大きな地震がありました。その時も子どもたちは先生の話をよく聞いて、おしゃべりをせずに真剣に参加できていました。年長児が年中児、年少児に声をかけ、手を取り合って坂を上っていく姿に微笑ましさを感じました。避難場所の見和グラウンドでは、不安そうにしている子どももいましたが、お家の方が迎えに来てくださり安心したようです。保護者の方々にも「お家に着くまでが避難訓練」という意識を共有することで、ご協力いただきました。



智学館

3年次生が足尾・尾瀬に出発。2泊3日の自然探究旅行を行いました。

9月25~27日、2泊3日の足尾・尾瀬自然探究旅行へ行ってきました。初日は、足尾銅山の歴史や環境問題について学習し、国土交通省の方々の協力を得て、全員でヤマボウシの植樹を行いました。キツネやサルも登場し、感動と驚きを伴ったものとなりました。翌日からの尾瀬ヶ原の自然探究は台風一過の好天に恵まれ、鳩待峠から3日目の大清水まで約24kmの道のりをひたすら歩き続けました。雲一つない青空、後ろには至仏山、前には燧ヶ岳がくっきりと姿を現し、自然の豊かさや雄大な地形の神秘さを体で学ぶ貴重な体験となりました。



智学館

スクールバスに
新路線「銚田便」の運行がスタート。
通学がさらに便利になります。

現在、智学館中等教育学校では遠方からの生徒も安心して通学できるよう、水戸駅および赤塚駅からスクールバスを運行しています。加えて、銚田市・小美玉市・茨城町方面から通学する生徒に対しても、交通の便をより良くするため、8月23日から次の経路で銚田方面路線を新設しました。新路線は、新銚田駅⇨舟木⇨紅葉⇨上吉影⇨堅倉⇨奥谷⇨智学館です。なお、2015年度からは那珂湊⇨大洗⇨常澄⇨百合ヶ丘⇨けやき台⇨智学館の、那珂湊方面路線の新設も予定しています。



高校

中学生と保護者の方を招いて
オープンスクールを開催。
常磐大学高校の魅力をアピールしました。

7月25日から27日までの3日間、オープンスクールを開催しました。初日は650名、2日目は498名、3日目は597名の中学生、保護者の方にご来校いただき来校者合計1,745名と昨年を上回る参加者数でした。当日は説明会のほかにも「制服・部活動ユニフォーム紹介」や「校舎見学スタンプラリー」、シャトルバスに乗って常磐大学まで移動しキャンパスを見学する「常磐大学キャンパスツアー」など、さまざまな「体験学習」を通して、常磐大学高校と常磐大学の魅力を感じ取っていただけたことと思います。



大学

第9回笠間いなり寿司コンテストで
健康栄養学科2年の手塚祐実さんが
特別賞を受賞しました。

10月12日、笠間芸術の森公園で、笠間いなり寿司コンテストが行われました。手塚さんは酢飯を使用せず、ひじきにしっかり味をつけた「ひじきの稲荷寿司」でエントリー。当日は、書類審査を勝ち抜いたいなり寿司8種類(学生の部:4種類)を実際に調理し、会場に集まった一般の方々が試食後、投票しました。激戦の中、見事、学生の部で特別賞を受賞した手塚さん。「子どものころからひじきをご飯にまぜて食べるのが好きでした。いつも料理を教えてくださいのお母さんに感謝ですね」とコメントしてくれました。



幼稚園

新しい遊具が仲間入りしました。
遊びを通した
体と心の成長を期待しています。

夏休み中の8月、園庭に新しい遊具2台を設置しました。子どもたちは早速元気に遊んでいます。「雲梯」はジャングルジムと一体になっていたものを取り払い、遊戯室前に単独で設置しました。園門のスロープ近くに設置した「登り棒」は、年長児を中心に、みんな裸足になって、それぞれの目標達成に向けて上を目指しています。雲梯も途中で力尽きてしまうこともあります。友達の声援を受けて最後まで踏ん張る姿が見られます。先生とのお約束を守った上で、遊びを通して体力と挑戦する意欲を身に付けてほしいと思います。



高校

現地での授業やホームステイで
新たな刺激を受けた
カナダサマーキャンプ。

8月16日、カナダ3か月語学留学に3名、サマーキャンプに10名の生徒が出発しました。ホームステイ先のエドモントンから、ノアデグ、バンフへの2泊3日の野外活動ではカナディアンロッキーの大自然に触れ、積極的に英語を使いながら、さまざまなアクティビティを体験しました。サマーキャンプに参加した生徒は約2週間カナダの空気を満喫し、全員が「もっとカナダにいたかった」と話していました。いつかまた、機会を設けてカナダを訪れ、ホストファミリーやカナダの先生と再会してほしいと願っています。



智学館

日頃の英語教育の成果を発表する
English Dayを開催しました。

9月21日、「英語で積極的にコミュニケーションを図る態度の育成」と「自信をもって発表するためのスキルアップ」を目的としたEnglish Dayを開催しました。洋楽の歌詞暗唱(1年次)やドラマ(2年次)、インタラクティブ・フォーラム形式の討論(3年次)、海外研修先であるボストンについてプレゼンテーションを行うボストン・プロジェクト(4年次)、「日本の出生率を上げるために私たちができること」について各自の主張を述べるカレント・イシューズ(5年次)などの課題に取り組み、どの生徒も、英語を使って堂々と発表することができました。

Spotlight

地域や世界で力を試し、さまざまな活動を通して実践的に学ぶ。また、優れた研究成果を社会に発信する。こうした学内外で行われている活発な活動にスポットを当ててご紹介します。



今後は、調査・実践の場を周辺の島々にも広げたいと考えています。また、島に限らず日本各地で、水の意味を問い直すことも長期的な課題です。



ジッキョヌホー（瀬利党の川）
このように管理されている湧水地もあるが、消えかけている場所も少なくない。



湧水のデータをもとにした今回の環境教育では、民話の中に湧水を取り入れた演劇が行われた小学校もあった。

自然の恵みである水にあらためて目を向け、 地域活性化や環境教育に役立てることをめざして。

コミュニティ振興学部 地域政策学科 准教授 元木 理寿 博士(理学)

研究テーマ: 沖永良部島における水資源を活用したESD展開に関する基礎的研究 平成24~26年度 日本学術振興会・科学研究費補助金 基礎研究(C)に採択

水道の利便性に慣れ、環境への理解が表面的に。

私の専門分野は地理学です。その中でも地域の水環境を中心に、地域における水と物質の循環を明らかにすることから環境教育へも視野を広げてきました。人が暮らす上で欠かせない水は、環境教育を考える上でも重要なテーマと言えます。今回の研究では、かつて水が生活や生産の様式を制約してきた島嶼地域を対象として、まず水資源の現状を把握するためのフィールドワークを行いました。さらに、水資源に関する調査資料をもとにしたESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育) が、小中学校などの教育機関でどのように展開できるか、また、地域の子どもと大人や高齢者などの世代を超えた交流に対してどのような力を発揮できるか、その可能性についても探求したいと考えました。

現在の日本の水道普及率は100%近く、現代人はその土地ではなく水道などのインフラの上に住んでいるとも言える現状があります。そして、その便利さによって、本来の水と生活とのつながりが見えにくくなり、環境への理解が表面的にとどまってしまう怖れもあります。また、未曾有の震災を経験した私たちは、その教訓として水が手に入らないことによる生活への影響の大きさを再認識し、あらためて水がどこからきているか、使った水がどこに行くかを考える必要性が高まっていると感じます。

湧水の調査資料が、環境教育や世代間の交流に貢献。

今回の調査では島の人々が使っていた湧水で、今も利用されているものの、忘れられてしまったもの、それぞれの名前も合わせて約90カ所について確認できました。それらに位置情報も含めた地図として提供し、沖永良部島の小学校関係者に「湧水地を活用したESDの実践」について協力を依頼したところ、複数の小学校で夏休みの自由研究として、あるいは総合的な学習の時間に組み入れていただくことができました。湧水については、児童が実際に行って見ることができるという前提から、現存するもののみ資料提供を行い、また、児童の安全を確保するため、危険と判断される場所については各小学校の判断により削除しています。児童は現地調査とともに地域の高齢者に聞き取りをし、その結果をまとめ、発表会で報告してくれました。民話をもとにした演劇の発表に発展した小学校もあり、そこではシマムニ(方言)があらためて認識され、それによって世代を超えたつながりが生まれる場面もありました。

環境教育においては、過去から連続する今を捉え、未来を考える視点が大切です。特に、現在の80代の方々がいなくなると、かつての日本を知る人はかなり少なくなると調査の中であらためて感じました。歴史・文化を伝承する時間が残されているうちに、学校だけでなく地域住民による手作りの環境教育をますます充実させなければならないと考えています。

Spotlight
01
.....
研究室

笠間市の青年海外派遣事業に参加し 9月22日から6日間シンガポールを視察しました。

笠間市では毎年、国際感覚・国際理解の精神を持って地域に貢献できる人材の育成を目的に、海外派遣事業を行っています。その事業に今回、本学の学生が参加した様子をお知らせします。



事前の研修で歴史的背景も学べました。(大槻さん、写真左)
情報だけでなく、体験が大切だと実感。(深谷さん、写真右)



海外から人を受け入れようとする姿勢に 共感しました。

深谷 翔子 コミュニティ振興学部ヒューマンサービス学科 4年

成長著しいシンガポールの観光政策やまちづくりの実態を見たいと思い、今回の事業に応募しました。現地では都市開発の様子を視察し、今ある自然を生かしたまちづくりを心掛けていることに注目しました。最も印象的だったのは2日目に訪れたアラブストリートで、イスラム教徒の方も食べられる食材や料理が手に入り、礼拝所も無料で用意されているなど、観光客として来訪しても過ごしやすいように配慮されていたことです。グローバル化が進む中、日本にもこうした海外の人を受け入れる姿勢が必要だと感じました。シンガポールのグローバルな視点に基づく都市計画は、大学で中心市街地の活性化を研究する者として、とても参考になりました。また、市民の1人としても、今回の派遣事業で得た知識を、新しいまちづくりに生かすことが大切だと思っています。

地域活性化のヒントをたくさん得て、 収穫は十分です。

大槻 奈菜 コミュニティ振興学部地域政策学科 2年

学部の先生から派遣事業のことを教えていただき、参加しました。滞在5日目に訪れた都市再開発庁では、土地の有効活用が必要だったこと、再開発に伴って人種を問わず調和できる社会を作ろうとしていることなどの説明を受けました。中でも公園と公園を道でつなぎ、車道を通ることなくサイクリングや散歩ができるようにしたことは、都市と自然を融合させる発想として、とても新鮮に感じました。滞在中、街中の看板やサイン類を観察していたのですが、表示が多言語に対応していることも、海外の人が安心する要素だと思います。東京オリンピックを控え、日本でもそのような整備を進めるべきだと思います。今回、笠間市の方々にお世話になり、公務員の仕事に親しみを持ったことも収穫です。将来の進路として自治体にも興味が湧き、視野が広がりました。

常磐大学の教員が執筆した さまざまな分野の著書をご紹介します。



- ① 講座 東北の歴史 第二巻 都市と村
- ② 平野 哲也 人間科学部 准教授
- ③ 入間田宣夫 監修、平川新・千葉正樹 編
- ④ 2014年10月
- ⑤ 清文堂

南東北の都市・村の個性豊かな歴史像を、下から、内側からの目線で解明した論集です。平野は、近世の北上川下流域に生きた百姓・仙台藩士の暮らしを具体的に描きました。



- ① 風通しが良くなる職場イベント大会
- ② 高橋 眞知子 キャリア教養学科 教授
- ③ 高橋眞知子 著
- ④ 2014年8月
- ⑤ 日本監督士協会

ギスギスした職場の人間関係の原因を探り、スムーズなコミュニケーションとマネジメント効果を上げるためのイベント開催の具体的な手法を紹介します。



- ① 薔薇水その他
- ② 菅野 弘久 キャリア教養学科 教授
- ③ 星野徹 著、菅野弘久 編
- ④ 2014年8月
- ⑤ 国文社

茨城を代表する詩人星野徹(1925-2009)の遺稿集です。没後、詩人の原稿類を整理中に発見した未刊の論集目次案メモをもとに編集。

① 著書名 ② 氏名・所属・職位 ③ 著者・編者等 ④ 発行年 ⑤ 発行所

大学院・大学・短大

- ★ 幼教フェスタ 12/21 (日)
- ★ 創立記念日 1/25 (日)
- ★ 卒業式・学位授与式 3/20 (金)

高校

- ★ クリスマスコンサート 12/20 (土)
- ★ 卒業式 3/1 (日)

智学館

- ★ 前期課程カルタ大会 1/21 (水)
- ★ Walking Day 2/14 (土)
- ★ 卒業式 3/2 (月)

幼稚園

- ★ 発表会 12/6 (土)
- ★ 育児に役立つ勉強会 1/21 (水)
- ★ 修了式 3/18 (水)



2014年8月より、学校法人常磐大学のラッピング車両が大洗鹿島線を走っています。1両分、両面カラーのラッピングで、水戸駅～鹿島神宮駅間を走行しています。車両の運行時間は随時変更しますが、大洗鹿島線沿線へ足を運んだ際は、ぜひ「ときわんこ」の絵がついたラッピング車両を探してみてください。

寄付者ご芳名

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。(敬称略)
[2014年7月～9月受け付け分]

■ 諸澤幸雄奨学金制度の創設・充実

企業	
芳名のみ公表	(有)ケイオービルサービス*、廣告社(株)*、富士通(株)*、小貫写真館、JTB関東法人営業水戸支店
個人	
100,000円	植竹 彰子、後藤 政子*
30,000円	石戸 隆明、小柳 武*、竹中 治利*、富田 恭平*
15,000円	中村 和彦*
5,000円	江原 徳子*
3,000円	坂井 知志*、久松 雄大*
芳名のみ公表	石田 喜美*、伊東 裕輔、江原 麻子*、菅野 弘久*、齊藤 亜希、齊藤 和代、関 いづみ*、田邊 正*、和田 堯太、和田 未萌
累計金額 88,474,526 円	

■ 常磐大学における地域金融に関する教育研究の奨励

3,000,000円	水戸信用金庫
------------	--------

●複数回お申し込みくださいました方は芳名に*を付しました。

寄付のお願い

諸澤幸雄奨学金募金へ寄付を賜り、誠にありがとうございます。
本学では、諸澤幸雄奨学金制度を創設し、その充実および継続的運営を目的に2009年11月から募金を開始しました。この間、多くの皆さまよりご寄付を賜りました。重ねて御礼申し上げます。
本学では、この制度をより充実させるため、引き続き募金の受け付けをまいります。ぜひとも募金の趣旨をご理解いただき、ご寄付を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

★寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係

tel: 029-232-2554 e-mail: kifu@tokiwa.ac.jp

*寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

アンケートご協力をお願い

- ①印象に残った記事とその理由など
- ②今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど

皆さまからのご意見・ご感想をお寄せください。
*名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する学校名)も併せてご記載ください。

kikaku@tokiwa.ac.jp
〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1



★お寄せいただいた方に、抽選で20名様に常磐大学オリジナルグッズを差し上げます。

2015年度入試日程 (2014年12月中旬より出願が可能なもの)

	入試区分	出願期間	試験日	試験会場
常磐大学	一般入試I期	2015年1月8日(木)～1月26日(月) (26日消印有効)	2015年2月4日(水)	水戸会場(常磐大学)、東京会場、仙台会場、宇都宮会場
	一般入試II期	2015年2月13日(金)～2月24日(火) (24日消印有効)	2015年3月4日(水)	常磐大学
	センター試験利用入試I期	2015年1月8日(木)～1月28日(水) (28日消印有効)	大学入試センター試験日 2015年1月17日(土) 2015年1月18日(日)	—
	センター試験利用入試II期	2015年2月16日(月)～3月4日(水) (4日消印有効)	—	—
	外国人留学生・帰国子女入試	2015年1月8日(木)～1月26日(月) (26日消印有効)	2015年2月4日(水)	—
	社会人入試	2015年2月13日(金)～2月24日(火) (24日消印有効)	2015年3月4日(水)	常磐大学
常磐短期大学	一般入試	2015年1月5日(月)～1月19日(月) (19日消印有効)	2015年1月25日(日)	常磐短期大学
常磐大学大学院	春 semester 入学II期	2015年1月14日(水)～1月23日(金) (23日消印有効)	2015年2月12日(木)	常磐大学
常磐大学 高等学校	推薦入学試験	2014年12月16日(火)・17日(水) 9:00～16:00 受付場所: 常磐大学高等学校	2015年1月9日(金)	常磐大学高等学校
	一般入学試験	—	2015年1月15日(木)	本校会場、武道館会場、空閑会場、日立会場、常陸太田会場、鉦田会場
智学館 中等教育学校	第2回入学試験 一般入試B(併願) 帰国子女入試(併願)	【郵送】2014年12月8日(月)～12月22日(月)必着	2015年1月6日(火)	智学館中等教育学校
		【窓口】2014年12月19日(金)～12月22日(月) (日曜日を除く)		
	第3回入学試験 一般入試C(併願) 帰国子女入試(併願)	【郵送】2015年1月21日(水)～2月3日(火)必着	2015年2月7日(土)	
		【窓口】2015年1月31日(土)～2月3日(火) (日曜日を除く)		

*詳細は、常磐大学アドミッションセンター (TEL:029-232-0007)、常磐大学高等学校 (TEL:029-224-1707)、智学館中等教育学校 (TEL:029-212-3311)へお問い合わせください。